定例総会　今年も盛大に開催！
～ 芥川倶楽部　10年間の活動の軌跡を振り返る ～

7月5日

今年で総会も10回目。私たち「芥川・ひとと魚にやさしい川づくりネットワーク」の活動も、多くの方々のご協力とご参加を得て、10年目を迎えることができました。

会場には、国土交通省、大阪府、高槻市から、来賓をお迎えし、アドバイザーの徳島大学の武藤裕則教授、ネットワークの構成団体と協力団体の皆さんにご出席いただきました。

議案としては、平成25年度の事業・会計報告、平成26年度の事業計画・予算案、新役員について審査され、承認されました。

続いて報告として「芥川倶楽部の活動10年の軌跡」と題し、設立から今日に至るまでを映像とともに振りかえりました。あんなことがあったなぁ、こんなこともあったなぁと懐かしむとともに、これからの１０年もがんばろうと、みんなのモチベーションの向上にもつながりました。

【10年間の主な活動】

- 魚みちづくり（土のうでも手作りしました）
- 芥川創生基本構想の策定
- 特定外来生物「ミズヒマワリ」の駆除
- 芥川クリーンアップ大作戦
- あくあぴあ芥川 周辺での定例活動（澪筋づくり、竹林整備）
- 各種イベント（お父さんのための魚とり講座、淀川芥川合流点わんど観察会、生物多様性講座）
- いろいろな川づくり団体との交流
- 魚の棲み場づくり（魚みちのメンテナンス、アユの産卵場整備、アユの遡上調査）

これからのイベント

★詳細は芥川倶楽部ブログをチェックしてね！

平成27年　1月23･24日　　たかつきエコフェスタ２０１５　【ブース出展】

2月14日(土)PM２時～　芥川倶楽部10周年記念シンポジウム　**もっと身近な川づくり**

【会場】高槻市総合センター14階　C1401会議室

第1部では、10年間の活動を経て、どのように芥川が変わったのか検証し、第2部では、ゲストに、水・環境ネット東北の高橋万里子さんと、日本全国の川づくりを調査した筑波大学大学院の坂本貴啓さんをお迎えし、これからの川づくりについて考えます。

3月21日（土）AM10時～　**芥川クリーンアップ大作戦**

芥川倶楽部では、川づくりや各種イベントに一緒に参加してくれる方を募集しています。
イベント等の情報は芥川倶楽部ブログで、紹介していますので、ぜひご覧ください。

ブログ :http://akutariv.blog85.fc2.com/　　HP :http://akutagawaclub.web.fc2.com/

e-mail : akutagawa0726@yahoo.co.jp

～～～ 芥川はみんなの川です　芥川をきれいにしましょう　ゴミを捨てないようにしましょう　～～～

あなたと自然が触れ合える芥川の情報誌

芥川水辺だより

Vol.20
2014年
冬号

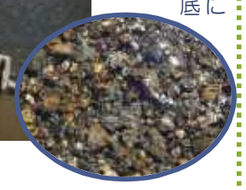
アユの産卵場を整備しよう! ＆ JR下流の魚みちのメンテナンス

10月18日

今年は前年に比べてアユの遡上が少なかったのですが、その少ないアユにたくさん卵を産んでもらおうと、秋の産卵時期に合わせ川底をたがやしました。

城西橋の上流は、以前にアユの卵が見つかった場所ですが、川底がガチガチに締まっていてアユが卵を産むのに適した状態ではありません。そこで、みんなで産卵に適した川底にします。

秋晴れのもと、市民や、毎年参加の関西大学ボランティアセンターの学生と、熊手やスコップ、クワ、トンボなどを持ち、川に入って畑を耕すように川底を混ぜました。アユが卵を産むのは、流れが速く、川底に数センチ程度の小石や砂利がたくさんあり、小石と小石の間が泥などで埋まっていない「水通し」の良い、ふわふわの川底です。石と石に適度な隙間ができて、ふわふわな状態になったので、きっと、アユは産卵してくれるでしょう。



ふわふわな川底

続いて、台風の影響で土砂が堆積した、JR下流の魚みちのメンテナンス。若い人達のパワーで、魚みちの機能が回復。これで魚たちも一安心したことでしょう。

平成27年(2015年)1月　発行　**芥川・ひとと魚にやさしい川づくりネットワーク～愛称：芥川倶楽部**
事務局：NPO法人芥川倶楽部　　ホームページ　http://akutagawaclub.web.fc2.com/　　ブログ　http://akutariv.blog85.fc2.com/
問合せ先：　あくあぴあ芥川　　TEL　072(692)5041

●芥川・ひとと魚にやさしい川づくりネットワークは河川協力団体(国(近畿地方整備局)第2号)に認定されています●

7月26日

お父さんのための魚とり講座

この講座は、夏休みの始まりに、魚の上手なとり方を子どもには内緒で、こっそりお父さんたちに伝授し、子どもたちのヒーローにしようとするもの。当日は、お父さんやお母さんらと、子どもたち総勢36 人の参加でした。

まず、お父さんたちは、芥川で魚の取り方の講習と実習です。その間に子どもたちは、あくあぴあ芥川で、芥川にいる魚の勉強。芥川にいる魚たちの話を水槽の前で聞きました。

合流してからが、お父さん・お母さんたちの腕の見せ所です。川に入って子どもたちに上手な魚のとり方を教えました。みんな魚とりに夢中でした。暑い日ではありましたが、あまりとれないシマドジョウがとれたり、今年生まれかな？と思われるムギツクの子どももたくさんとれました。

平成26年アユの遡上調査結果報告!

平成24年から実施している芥川大橋上流の魚みちでのアユの遡上調査。今年は、5月15日から7月15日までの延べ62日間、市民や学生の皆さんと芥川倶楽部のメンバーが目視調査を行いました。参加者は延べ172名。ご協力ありがとうございました。

目視で確認できた魚は、4,395匹。しかし、「もんどり」で捕獲調査したところ、その内3,811匹はアユ以外の魚でした。オイカワ、ブラックバスの稚魚、ニゴイ、モツゴ、モロコなど。今まで堰や落差工で魚の行き来ができなかったのが、魚みちができたおかげで、芥川の生物の拡がりが確認できたことはうれしいことですが、特定外来生物のブラックバスの稚魚の多さが今後の課題になりそうです。

来年は、もっと多くのアユの遡上が見れると良いですね。遡上調査は、多くの方のご協力が必要です。来年の参加もお待ちしております。

	推定遡上数
平成24年	11,000匹
平成25年	6,300匹
平成26年	2,300匹

年毎の差が大きいことが分かります。芥川のアユの生態を知るには長期の調査が必要かも？

遡上調査の様子

水辺の学校
～川の楽しさと安全を学ぼう～

「水辺の学校」は、大阪府の茨木土木事務所とともに、芥川倶楽部、あくあぴあ芥川、高槻市、高槻警察が合同で実施しています。今年は、小学校3年生と4年生約200人が参加。身近な芥川、女瀬川の生き物調査を通して川への親しみを持ってもらうとともに、川で遊ぶ際の約束ごとなど水難事故の防止のための啓発を行いました。

事前に、学校で、身近にある川とそこに生息する魚などの特徴について学ぶ「生き物学習」と、川で遊ぶ際に注意することや、川の怖さについて学ぶ「防災学習」などを行いました。

そして迎えた生き物調査の日。注意事項を聞いた後、約40分の調査。みんなが採取した生き物は、一種類ずつ、あくあぴあ芥川の花崎主任研究員ら講師が、丁寧に説明を行いました。今回も子ども達は大喜びでしたが、私たち大人も楽しい川を感じることができました。これからも川の楽しみを子ども達に伝えていければと思います。

市民普請大賞に挑戦
～土木学会100周年事業～

8月23･24日

土木学会では、創立100周年を機に「市民普請」を応援するために「市民普請大賞」を創設しました。「市民普請」とは、「市民が主導的な役割を果たしながら、地域を豊かにするために実践する公共の取り組み」のことで、まちづくり、みちづくり、かわづくりなど多岐に渡ります。

東京で行われた一次選考には全国から予備選考を通過した33団体が集まりました。プレゼンテーションでは、各団体が趣向を凝らしたパネルを持ち寄り、芥川倶楽部もこれまでの活動内容をまとめたパネルを作成して発表しましたが、全国の壁は厚く、残念ながら最終選考へ進むことはできませんでした。

他の団体の発表を聞くにつれ、市民活動は、どんどん新しくなっており、先頭を行く団体の手法を学んで、さらに良いものにしたり、新たな発想の活動を取り入れていくことが大事だと実感しました。

生物多様性って何？
～生物多様性とは？外来種とは？～

8月30日

京都外国語大学准教授の畑田彩さんと兵庫県立人と自然の博物館研究員の鈴木武さんをお招きし、生物多様性と外来種をテーマに講座を開催しました。約60名参加があり、会場はいっぱいになりました。

畑田先生は、「俳句の季語は生物にちなんだものが多いです。夏休みの思い出を俳句にしてください。」といきなり始まりましたが、参加者は次々と自作の俳句を披露し、和やかな雰囲気で講座がスタートしました。

「皆さんが食べている食事内容はすべて生物です。生物が多様でなければ、食べていけないし、文化も成り立ちません」と説明され「自然に目を向けること、環境に配慮した商品を選ぶこと、子どもを外に連れ出すことが大事。」と教えていただきました。

鈴木先生の講座は、「外来生物とは、明治以降に外国から、日本にやってきた生物と定義され、2,239種も定着しています。そのうち、生態系等に被害を及ぼす外来生物を特定外来生物として、112種を国が指定しています。」と、数の多さから始りました。具体的な例として「ハブをやっつけてくれと思ったマングース、合鴨農法とともに広がったオオアカウキクサなど外来生物は人の思惑が絡んで導入されている場合が多い。」など、人間活動による自然への影響について色々考える機会となりました。

津之江公園de環境学習に協力しました！
～バッタ採り＆バッタオリンピック～

10月28日

高槻市環境緑政課が主催した津之江公園での環境学習に、田口代表が講師として参加しました。環境学習には、津之江小学校3年生50名が参加し、バッタ採り＆バッタオリンピックをしました。

子ども達は、バッタの体のつくりについて学んだ後、虫採り網を手にして夢中になってバッタ採りをしました。この日確認できたバッタ類は、トノサマバッタ、ツチイナゴ、エンマコオロギなど13種類。

種類の確認をした後は、班対抗のバッタオリンピックです。各班で相談して一番飛びそうな選手を選び、飛距離を競いました。一番飛んだのはトノサマバッタで、その距離なんと35.5m!!どの班の選手も大健闘し、大変盛り上がりました。

この学習をきっかけに、自然再生が進んだ津之江公園に色々な生き物がいることを知ってもらい、ご家族やお友達と一緒に訪れて自然に触れてもらいたいと思います。

第7回いい川･いい川づくりワークショップに参加
会場：国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都）

9月20･21日

今年も秋の恒例行事「いい川・いい川づくりワークショップ」に参加しました。

いい川Wの目的は、全国の団体の中からグランプリを決定することもありますが、自分達が目指す川や水辺はどのような姿なのか、自分達にとって“いい川”ってどんなことなのか、立場や地域の異なる人々が発表し、議論して、将来の望ましい姿や方向性を見つけていくことが重要です。

今回、芥川倶楽部は、平成24年度から取り組んでいるアユの遡上調査を中心に発表しました。発表では、遡上調査での魚の見分け方を、身振り手振りを交えながら説明。また、今年から登場した新アイテム「簡易定置網・モンドリ」を会場に持ち込み、魚を実際に捕まえて数える様子を実演しました。あっという間の3分間でしたが、練習どおりのできで、私たちの活動を会場のみなさんに伝えることができたのではないかと思います。

今回の選考会ではいくつかのキーワードが出ました。印象的だったのは「向き合う」「世代交代」「川の外に出る」「雨水」･･･。自分達がこだわる課題に対してとことん「向き合い」それをずっと継続すること。次の川づくりの担い手、若い力で元気に活動していること。「川の中」だけにとどまらず、流域の田んぼや遠く離れた地域どうしが連携すること。今年は豪雨災害が多かったこともあって、いかに「雨水」とうまく付き合っていくかということ。そのあたりが評価されるポイントになっていました。

いつも、いい川WSに参加することで、新たな刺激と感動をもらい、明日からの川づくりへのエネルギーとなっている気がします。こういった場に参加しながら、活動の輪を広げ、芥川の川づくりに活かしていきたいと思います。

新アイテム
簡易定置網「モンドリ」